

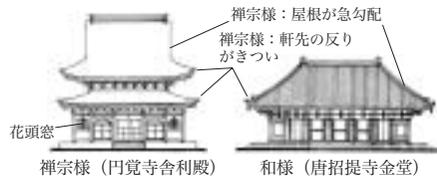


1 日本・西洋建築史

問題 1 答 3



- 奈良県にある薬師寺東塔は、730年につくられた本瓦葺きの三重塔であり、各重に裳階が付いた建築物である。
- 広島県にある厳島神社社殿は、桧皮葺きの殿堂を回廊で結び、海面に浮かんで見えるように配置した建築物で、ユネスコ世界遺産に登録されている。
- 神奈川県にある円覚寺舍利殿は、和様に比べ部材が細かく、軒先の反りや屋根の勾配がきつい等の特徴をもった禅宗様(唐様)の建築物である。よって、誤り。



- 京都府にある鹿苑寺金閣は、方形造りの舍利殿で、最上層を禅宗様(唐様)、二層以下を和様とした三層の建築物である。
- 三重県にある伊勢神宮内宮の正殿は、倉庫として用いられた高床家屋が神社建築に転化したと考えられており、掘立て柱が用いられた神明造りの建築物である。

問題 2 答 1



- 奈良県にある法隆寺東院夢殿は、二重基壇の上に八角の平面がつくられ、本瓦葺き屋根がかけられた飛鳥時代の建築物である。平安時代ではないので、誤り。
- 奈良県にある東大寺南大門は、ひじ木を柱に直接差し込んで、組物を前面に大きく突き出し、構造美を強調した大仏様(天竺様)の建築物である。
- ギリシア建築の代表的な建築物であるパルテノン神殿は、ドリス式オーダーのもつ力強さと、イオニア式オーダーのもつ優美さをたくみに結合させた建築物である。
- フランスにあるパリ大聖堂(ノートルダム大聖堂)は、ポインテッドアーチ、リブヴォールト、バットレス、フライングバットレスなどを使用して大空間を作り出すゴシック建築のひとつである。
- 栃木県にある日光東照宮は、権現造りの社殿で、将軍や大名の墓所を中心とした宗教的な霊廟建築である。ここには徳川家康がまつられている。

問題 3 答 5



- 日光東照宮社殿(栃木県)は1643年、サン・ピエトロ大聖堂(ヴァチカン)は1667年につくられたバロック建築を代表する建築物である。
- ゴシック建築の代表的なキリスト教教会であるパリ大聖堂(フランス)は1250年頃につくられた。東大寺南大門(奈良)は1199年に再建された大仏様(天竺様)

の建築物である。

- ロマネスク建築のひとつであるピサの大聖堂(イタリア)は1118年、中尊寺金色堂(岩手県)は1124年につくられた建築物である。
- ヴェルサイユ宮殿鏡の間(フランス)は1684年につくられたバロック建築であり、桂離宮(京都府)は1651年頃につくられた数寄屋造りの住宅である。
- 薬師寺東塔(奈良県)は730年につくられた各重に裳階が付いた三重塔で、パルテノン神殿(ギリシャ)は紀元前432年につくられたものであり、建築された年代が最も隔たっている。よって、正解。

問題 4 答 2



- ハギア・ソフィア大聖堂は、532～537年に初期ビザンチン建築の様式で建てられたトルコ・イスタンブールにある教会堂である。その構造はペンデンティヴドームを用いて壮麗な空間を作り出したものであり、現在は博物館として利用されている。
- ミラノ大聖堂は、1386～1813年にかけてゴシック建築の様式で建てられたイタリア・ミラノにある教会堂である。よって、誤り。ロマネスク建築の代表的な建築物にはピサの大聖堂(イタリア・ピサ)・鐘楼(ピサの斜塔)などがある。
- ノートルダム大聖堂は、1163～1250年に建てられたゴシック建築である。
- フィレンツェ大聖堂は、1461年完成のルネサンス建築であり、ギリシア・ローマ建築様式の復興をねらい、水平線を多用した外観のデザインとなっている。
- サン・ピエトロ大聖堂は、1667年完成のバロック建築であり、絵画や彫刻の技法を取り入れた躍動感あふれる構成となっている。

EXERCISE 解答 ①エ ②イ ③ウ ④ア

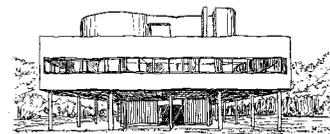
- 法隆寺東院夢殿(斑鳩町)は、本瓦葺き屋根で、一辺が4.7mの八角円堂である。
- 伊勢神宮内宮正殿(伊勢市)は、切妻屋根で、神明造りの代表的な建築物である。
- 唐招提寺金堂(奈良市)は、一重の寄棟屋根。和様で奈良時代末期の建立である。
- 円覚寺舍利殿(鎌倉市)は、花頭窓が見られ、禅宗様(唐様)の代表的な建築物である。

2 近代・現代建築史

問題 1 答 1



- ル・コルビュジェが設計したサヴォア邸(1931)は、フランス・パリ北郊外に建てられ、ピロティ、屋上庭園、水平連続窓、自由な間仕切壁の配置、外壁の自由なデザインといった特徴のある住宅である。よって、誤り。



サヴォア邸



ファンズワース邸